

町民ギャラリー・

エントランスホールで

ミニ展示会・

ミニコンサート

やってみませんか

町役場では、新庁舎のスペースを町民の皆さん方の文化活動などに活用していただき、様々な活動の拠点としても使用していただこうと、町民ギャラリーとエントランスホールでのミニ展示会・ミニコンサートを行ってきています。町役場開庁時という制約がありますが、多くの町民のみなさんに利用していただきたいと思います。

◆連絡先

町役場まちづくり推進室
担当／渡辺(TEL 72 6023)



今月の庁舎企画

町民ギャラリー 回今開催中!

小佐野 美紀 個展 (勝山)

「木の絵の世界」

1992年より木工芸

作家小嶋伸氏に師事。木の素材の持っている暖かさに引かれ、ウッドピクチャーの制作を行う。1995年より、脱サラして石の作家となった夫小佐野哲二と共に都内の百貨店を中心に作品発表を行う。2001年4月から主人の仕事場の隣にできた展示スペース常設展示場「磊造 (raizou)」に作品を並べる。

◆展示期間 1月27日(木)～2月15日(火)



ウッドピクチャーとは

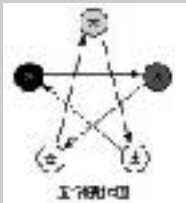
いろいろな種類の木を用いて作る木の絵です。象嵌のように埋め込んで世界を創ります。木工芸作家小嶋伸が独創的に創りだした技法を基に、木の種類、厚みは問わず、小刀で削ったり、ペーパーで磨いたり、流木も取り入れたり、心に浮かんだ世界を表現しています。想像の世界のような作品もありますが、多くは過去の経験に基づいています。主役は動物でも、その世界は人間かもしれませんね。作品は半立体風なものが主になります。あえて材料の制限はしていません。使用できるものをどんどん取り入れていきたいと思っています。

「節分について」

節分というのは立春・立夏・立秋・立冬の前日のことをいうのですが、特に立春が1年の初めと考えられることから春の節分が最も重視されており、春の節分を指すものとなっています。これは立春を新年と考えれば大晦日に相当する訳で、そのため前年の邪気を全て祓ってしまふための追儺(ついな)の行事が行われます。その代表が「豆まき」です。

「追儺(ついな)」とは、

文武天皇の世、慶雲3年(706)に疫病がはやり多くの百姓が死んだため「土牛」を作って疫気を祓ったという記事が続日本書紀に出ています。これが追儺の行事の始まりであるとされています。この土牛を使う儀式は中国の礼記に「土牛を作りて寒気を送る」とあることを参考にしたものと思われる。すが、陰陽師(おんみょうじ)たちによってやり方が整えられ、平安時代の頃には次のような形に発達していった。大寒(12月節)の日に宮中の12の門に12組の土牛童子を立てる。これは童子が牛を引く形の人形であるが、東の陽明門・待賢門には青い土牛童子、南の美福門・



朱雀門には赤い土牛童子、西の談天門・藻壁門には白い土牛童子、北の安嘉門・偉鑒門には黒い土牛童子、そして残りの、東の郁芳門・南の皇嘉門・西の殷富門・北の達智門には黄色い土牛童子を立てる。これを立春(二月節)の日の前夜半時に撤去する。

「豆まき」の意味は

大豆は硬いですね。硬いものというのには「木火土金水」の五行では「金」に属します。この大豆は最初煎ることによって火気にあてられ「火剋金」の原理で剋された上に、「鬼は外」といって外にまかれて捨てられたり、「福は内」といってまかれてから人々に食べられたりして、要するに豆はみんな「やっつけられてしまいます」。古来疫病や災厄というものを金気に属するものと考えられていました。ですから豆というのは実は鬼をやっつける道具でありながら実は鬼そのものでもあるわけで、豆まきというのは邪気を祓うとともに、「金」の気を剋することで「金剋木」で金気に剋されるはずの「木」の氣つまり春の氣を助ける行事、つまり春を呼ぶ行事でもあるのです。



休日・夜間の救急医の問い合わせ先 TEL 23-4444 (富士五湖消防本部テレホンサービス)
平日 午後5時～、土曜日 12時～、日曜・祝祭日 午前8時～



ISO 14001 認証取得
地球環境にやさしい町づくりを進めています。

「広報富士河口湖」は資源保護とリサイクル促進のため再生紙を使用しています。

ホームページアドレス
Eメールアドレス

http://www.town.fujikawaguchiko.yamanashi.jp/
kikaku@town.fujikawaguchiko.yamanashi.jp

